



にじのはし幼稚園 園だより

平成28年6月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 酒井 正美

あじさいのはながさいてるよ かたつむりはあそびにくるのかな
あめもあそびにきていいよ みんながたのしいようちえん



お台場学園港陽小学校、港陽中学校、にじのはし幼稚園 20周年記念大運動会

先日のお台場学園港陽小学校、港陽中学校、にじのはし幼稚園 20周年記念大運動会は、晴れわたる空の下、皆様の温かい声援を受け充実のうちに終えることができましたことに感謝申し上げます。

保護者の皆様からは、「入園間もない我が子が、楽しそうにリズムをしている姿に安心しました。」「20周年おめでとう、の大きな声に子どもたちの成長を感じました。」「小学校、中学校の様子を見ることができる環境は、貴重だと感じました。」といった感想をいただきました。

子どもたちの成長を見とり、広い視野で温かく見守り協力してくださる姿勢に、幼稚園の教育が支えられていることを感じます。日々経験すること、見ることやその環境にいることも含め、それらが子どもたちの成長の糧となるように支えることは、幼児期の学校教育の場である幼稚園の役割です。お台場学園とともに過ごす、にじのはし幼稚園ならではの環境を十分に生かし、教育を進めてまいります。

親子でおはようございます

さて、園長は親子で登園するみなさんと朝の挨拶をする機会があります。明るい表情と声の挨拶に、毎朝元気をいただいています。お子さんには、立ち止まり相手の顔を見てしっかりと声で挨拶をしてほしい、と保護者の方は思われることでしょうか。しかし、なかなかそうはいかないこともあります。登園途中で見つけた花や葉を「きれいなあったよ。」と見せてくれたり、恥ずかしそうにちらりと顔を見たり、キュッと抱きついてきたり。このような姿も、私はその子なりの挨拶とうれしく受け止めています。「今日も元気に来たよ。」「会えてうれしいな。」と挨拶の大事な意味である相手への思いをもち、自分なりに伝えようとしてくれるからです。

もちろん、型も大事です。大人が挨拶を交わす姿を見せること、場面に応じた言葉遣いや振る舞いを伝え、させるようにすることも必要です。型から入る、ということもあると思います。しかし、目に見えることだけで評価したり先を急いだりし、型さえ整っていればいいという訳ではありません。

入学前の5歳児後半頃には、場面や相手に応じた挨拶や振る舞いのできる子どもに育ててほしいと願っています。そのためには、必要な言葉遣いや振る舞いを伝えることとともに、挨拶や振る舞いの大事な中身である、相手を思う気持ち、自分の思いを伝えられる喜びを、幼児期にじっくりとしっかりと育てていく必要があります。幼児期に育てることは、小学校以降そして大人になってもその人の基礎となっていくのです。

